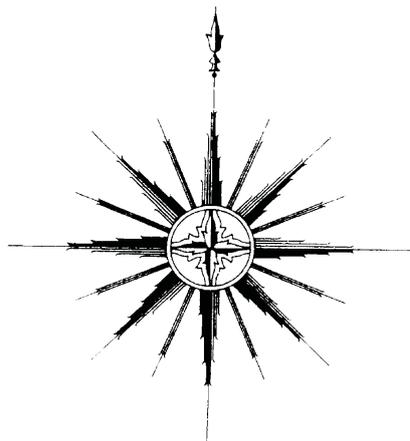


研究活動報告

(2019年4月～2020年3月)



凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

文化財論講座

杉山 祐子

(1)現在の研究テーマ

- アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」
- 在来知、アフリカ農村における植林プロジェクト終了後の農民の生計の長期的変化と技術定着
- ジェンダーと「現金の社会化」
- 北東北地域における小規模アグリビジネス、食生活の変化

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 杉山祐子「ヒト的な様態としての調理加工の共同と生存—食が社会にひらかれるとき」『極限—人類社会の進化』、pp.479-504、単著、2020年1月

[その他]

- 杉山祐子・日比野愛子「「地域の持続性に向けた共創手法の深化」プロジェクト」『平成30年度 弘前大学特定プロジェクト教育研究センター 地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.39-44、共著、2020年2月
- 杉山祐子「「見ればわかる」と「共感」をつなぐ社会性」『科研基盤S 社会性の起源と進化公開シンポジウム記録』、pp.21-25、単著、2020年2月
- 地域未来創生プロジェクト「地域の持続性に向けた共創手法の深化」
- フィールドワーク「地域における農産物直売所と小規模アグリビジネスの可能性」

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 杉山祐子「村びとにとっての「緑の推進協力プロジェクト」とその後の展開：ドドマ市周辺ゴゴ村落の事例から」日本アフリカ学会第56回学術大会、単独、京都精華大学、2019年5月19日
- 杉山祐子（河合文氏代読）「「見ればわかる」と「共感」をつなぐ社会性」科学研究費補助金基盤研究（S）立ち上げ（キックオフ）シンポジウム『社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓』、単独、東京外国語大学、2019年11月23日
- 杉山祐子「社会包摂的プロセスとしてのイノベーション：ザンビア北部州ベンバの事例から」「アフリカ潜在力」プロジェクト研究会、単独、京都大学稲森記念館大ホール、2019年11月2日
- 杉山祐子「おカネがつなぐ・縁がつなぐ—現代アフリカ農村における現金獲得活動と新たな「共同」の楽しみ—」第244回アフリカ地域研究会、単独、京都大学稲盛財団記念館3階中会議室、2019年7月18日
- Sugiyama Yuko, “We have already tried it, only politicians just don’t know it”: Making innovation socially inclusive among the Bemba of Northern Zambia, *9th African Forum: Lusaka-Mobility as African Potentials*, 単独, Lusaka, Cresta Golfview Hotel, 1st December 2019
- 杉山祐子「タンザニア中部の農牧民ゴゴにおける野菜栽培の展開」「アフリカ農業・農村社会史の再構築（2）：在来革命の視点から」共同研究会、単独、東京外国語大学、2019年12月15日
- Tsuruta Tadasu, Sugiyama Yuko, “Grassroots Innovation Process among Rural Communities in Africa” *the 8th European Conference on African Studies (ECAS)*, 共同, Edinburgh, UK, 14th June 2019

[講演]

- 「農村生活における現金と共同の楽しみ—タンザニア農村の事例から」アフリカセミナーの会例会、仙台国際センター、2019年11月21日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2019年6月 ECASにおける研究発表 エディンバラ、UK
- 2019年8月 タンザニア及びザンビアにおける現地調査
- 2019年12月 アフリカン・フォーラムへの参加、研究発表、ルサカ、ザンビア

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（B）「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」への視角」（研究代表者）2018～2021年度
- 基盤研究（S）「社会性の起原と進化—人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」（研究分担者）2019～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「アフリカ農業・農村社会史の再構築：在来農業革命の視点から（2）」東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2016～2019年度
- 国内共同研究「社会性の起原と進化」東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2019～2020年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学資料館 企画展「“装う”アフリカ—世界との交錯の中で—」2019年6月1日～7月20日
(主催：日本アフリカ学会東北支部会、弘前大学人文社会科学部、共催：地域未来創生センター)

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 社会調査、生活文化調査、
- 食文化と地域産品

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- 日本アフリカ学会東北支部会例会

宮 坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- 古代末期の壁画の様式の問題
- ローマ美術における私的領域から公的領域への格上げの問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 宮坂 朋「アッティスーヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画と古代末期のシンクレティズム」『弘前大学人文社会科学部人文社会科学論叢』第7号、pp.1-12、単著、2019年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 宮坂 朋「レバノンのローマ壁画」第26回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会、単独、金沢大学、2019年7月6～7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「古代性の指標としての様式—東地中海世界における古代末期壁画様式研究—」（研究代表者）2018～2020年度
- イタリア語

山 田 巖 子

(1)現在の研究テーマ

- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 山田巖子・小島孝夫・小池淳一・丸山泰明・仁平政人『地方における「民俗」思想の浸透と具現化—渋沢敬三影響下の民間博物館—』、pp.1-22 75-78 125-133、編著 2020年3月、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
- 山田巖子監修・弘前大学民俗学実習履修学生『野辺地町の祭礼と民俗』、全303、監修、2020年3月、野辺地町
- 山田巖子・高島克史他『弘前大学レクチャーコレクション』、pp.236-248、共著、2020年3月、弘前大学出版会

[その他]

- 山田巖子「新刊紹介 新しいメディアリテラシー 佐藤卓己『流言のメディア史』」pp.232、日本口承文芸学会編『口承文芸研究』43号、2019年3月
- 山田巖子「「伝統」を「選択」し続ける 36年ぶり増補改訂「弘前ねぶた本」『陸奥新報』12面、2019年7月19日
- 山田巖子「日本の東北地方の鬼と山人」pp.195-206 韓国・谷城複合文化財保存会編『韓国・中国・日本 トッケビ（鬼）イメージからのアプローチ 国際学術討論会』2019年10月
- 山田巖子「文字から声を読む」pp.65-70 重信幸彦先生還暦記念日本民俗学講習会世話人編・発行『記念誌 重信幸彦先生還暦記念日本民俗学講習会』2020年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 山田巖子「日本の東北地方の鬼と山人」国際学術討論会 トッケビ（ハングル語で鬼）イメージからのアプローチ、単独、

韓国全羅南道ソンジガンマウル公会堂、2019年10月26日

(4)学外集中講義など

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2019年10月25日～27日 韓国ソンジガンマウル「鬼の国際学術討論会」に出席
- 2019年11月29日～12月1日 韓国国立民俗博物館×日本国立歴史民俗博物館共同開催特別展「昆布とミヨク」見学、シンポジウム参加、仁川マウル博物館見学

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「障害の歴史性に関する学際統合研究—比較史的な日本観察—」(研究分担者) 2019～2023年度
- 基盤研究 (C)「地方における「民俗」思想の浸透と具現化—洪沢敬三影響下の民間博物館」(研究代表者) 2017～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「野辺地町の祭礼と民俗調査」(研究代表者) 2019年度
- 国立歴史民俗博物館共同研究「日本における歴史文化研究拠点の構築」2019年度

関根 達人

(1)現在の研究テーマ

- 縄文 中近世考古学 北方史 石造物

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 関根達人『石に刻まれた江戸時代—無縁・遊女・北前船』、単著、2020年3月、吉川弘文館

[論文]

- 関根達人・米田穰・宮田佳樹・宮内信夫・堀内晶子・吉田邦夫「福山城下町遺跡の地鎮に使われた灯明皿とその油種」『北海道考古学』第56号、pp.71-77、共著、2020年3月
- 関根達人・近藤美左紀・柴正敏「火山ガラス分析を用いた南部地方の土器の胎土に関する基礎的研究」『研究紀要(八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館)』第9号、pp.1-12、共著、2020年3月
- 関根達人「松前城下出土のガラス玉」『考古学ジャーナル』737号、pp.16-20、単著、2020年3月
- 関根達人「墓石研究の視点と方法」『季刊考古学』149号、pp.14-21、単著、2019年11月
- 関根達人「墓石の普及と地域性 北陸地方」『季刊考古学』149号、pp.76-78、雄山閣、2019年11月
- 関根達人「日本海沿岸域における近世石造物の流通—石工銘資料に基づいて—」『論集 葬送・墓・石塔』pp.533-542、単著、2019年5月

[その他]

- 関根達人「北海道松前町福山城下町遺跡小松前町地点発掘調査報告」『人文社会科学論叢』7号、弘前大学人文社会科学部、pp.61-94、単著、2019年8月
- 関根達人「新刊紹介 浅倉有子編『アイヌの漆器に関する学際的研究』」『地方史研究』69巻4号、pp.175-177、単著、2019年8月
- 片岡太郎・上條信彦・関根達人『国史跡山王圀遺跡の研究 I 漆器編』弘前大学人文社会科学部附属北日本考古学研究センター、2020年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人「松前町上川遺跡の発掘調査」第40回南北北海道考古学情報交換会、単独、函館市中央図書館、2019年12月7日
- 関根達人「北海道島における陶磁器流通—12世紀～19世紀—」東洋陶磁学会第47回大会、単独、北海道江別市野幌公民館、2019年7月20日
- 近藤美左紀・関根達人・柴正敏・小野瑞紀「火山ガラス分析による縄文～弥生時代の土器移動の検討—沖縄県北谷町出土の在在地系・非在在地系土器を例として—」日本考古学協会第85回総会研究発表、共同、駒澤大学、2019年5月19日
- 関根達人「松前口の考古学的研究」日本考古学協会第85回総会研究発表、単独、駒澤大学、2019年5月19日

[講演]

- 関根達人「墓石が語る江戸時代」あおり県民カレッジ青森キャンパス講座、単独、青森県社会教育センター、2019年5月10日
- 関根達人「墓石が語る江戸時代」盛岡の歴史を語る会、盛岡市総合福祉センター、単独、2019年5月17日
- 関根達人「北海道の先住民を考える—アイヌ文化と和人の北方進出—」第88回草莽私塾、単独、道民活動センターかでの、

2019年6月1日

- 関根達人「お墓の魅力」弘前大学創立70周年記念リレー講演、単独、弘前大学創立50周年記念会館、2019年6月8日
 - 関根達人「考古学から見た建築」青森県ヘリテージマネージャー養成講習、単独、青森県社会教育センター、2019年6月15日
 - 関根達人「墓石が語る江戸時代」令和元年度五所川原市市浦地区高齢者教室「寿大学」第2回学習会、単独、五所川原市市浦コミュニティセンター、2019年6月26日
 - 関根達人「越後産焼酎徳利（松前徳利）の生産と流通一箱館・新潟開港の射程のなかで」新潟市歴史博物館令和元年度企画展「開港場新潟展」記念講演、単独、新潟市歴史博物館、2019年8月4日
 - 関根達人「墓石が語る江戸時代」あおもり県民カレッジ下北地区地域キャンパス講座、単独、むつ市中央図書館、2019年9月4日
 - 関根達人「縄文時代の北日本の人口変動と社会変化」日本太陽エネルギー学会青森大会記念講演、単独、ホテル青森、2019年10月17日
 - 関根達人「発掘された城下町松前」令和元年度松前町歴史講演会、単独、松前町町民総合センター、2019年10月19日
 - 関根達人「墓石が語る江戸時代」あおもり県民カレッジ八戸キャンパス講座、単独、八戸市総合福祉会館、2019年11月30日
 - 関根達人「高屋敷館遺跡とその時代」あおもり県民カレッジ青森キャンパス講座、単独、青森市中世の館、2020年2月15日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- ロシア連邦/サハリ州ポロニスク博物館、科学研究費補助金基盤研究(B)「サハリンアイヌの総合的研究：その成立と変貌」関連資料調査、2019年9月20日～28日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 挑戦的研究(萌芽)「火山ガラス分析による新たな土器研究法の開拓」(研究代表者)2017～2019年度
 - 基盤研究(B)「サハリンアイヌの総合的研究：その成立と変貌」(研究分担者)2017～2021年度
 - 基盤研究(B)「近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究」(研究分担者)2016～2020年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 人文社会科学部附属北日本考古学研究センター研究協定「史跡山王冨遺跡の漆工芸研究」(宮城県栗原市教育委員会、2016～2019年度)
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- 展示会「寄贈記念 石器大好き！ 高橋啓一コレクション展」弘前大学人文社会科学部附属北日本考古学研究センター、2019年10月12日～11月10日

上 條 信 彦

(1)現在の研究テーマ

- 東アジア先史時代の食文化・食品加工技術の研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 片岡太郎、上條信彦、関根達人『国史跡山王冨遺跡の研究Ⅰ 漆器編』、共著、2020年3月、弘前大学北日本考古学研究センター
- 小泉翔太、田中克典、上條信彦『日本の出土米Ⅴ』、共著、2020年3月、弘前大学北日本考古学研究センター

[論文]

- 上條信彦「弥生時代開始期における出土米の形質変異(特集 弥生時代の始まり)」『月刊考古学ジャーナル』第729号、pp.20-23、単著、2019年8月
- 上條信彦、田中克典、小泉翔太、鐵英記、池田征弘「水稻農耕定着段階における兵庫県域出土米の粒形質と品種」『兵庫県立考古博物館研究紀要』第13号、pp.59-74、共著、2020年3月
- 上條信彦、孫国平「田螺山遺跡出土礫石器からみた食料加工技術の変化」『中国考古学』第19号、pp.47-68、共著、2019年11月
- 上條信彦、田中克典、小泉翔太、濱田竜彦「青谷上寺地遺跡出土イネの粒形質・DNA分析」『青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2018』、pp.20-28、共著、2020年1月

[その他]

- 上條信彦「第20回宮坂英弉記念尖石縄文文化賞」受賞、茅野市・信濃毎日新聞社、2019年10月12日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 田崎博之、宇田津徹朗、石川隆二、上條信彦、田中克典「中国新石器時代における良渚文化期の稲作技術について」日本考古学協会第85回大会、共同、駒澤大学、2019年5月19～20日
- 片岡太郎、上條信彦、佐々木理、高橋満「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」日本考古学協会第85回大会、共同、駒澤大学、2019年5月19～20日
- 上條信彦、南武志、高橋和也「イオウ同位体比分析による出土アスファルトの原産地推定」日本文化財科学会第36回大会、共同、東京藝術大学、2019年6月1～2日
- 田中克典、上條信彦、久保田慎二、石川隆二、田崎博之、金原正明、金原美奈子、劉斌、王寧遠、陳明輝、王才林、趙春芳、中村慎一、宇田津徹朗「浙江省良渚遺跡群より出土したイネ種子のDNA分析」日本文化財科学会第36回大会、共同、東京藝術大学、2019年6月1日
- 上條信彦「モンゴル地域の磨棒・磨盤」第21回北アジア調査研究報告会、単独、九州大学、2020年2月15～16日

[講演]

- 上條信彦「縄文時代の暮らしと文化 ～縄文遺跡群の理解のために～」弘前市ベテランズセミナー、弘前市中央公民館、令和元年10月10日
- 上條信彦「縄文時代石器の概要と石器使用痕分析」、令和元年度岩手県埋蔵文化財発掘調査技術講習会、岩手県立博物館、2019年12月6日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 中国山東省煙台市博物館（2019年10月）
- モンゴル科学アカデミー（2019年8月）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（B）「稲作北限域における農耕化プロセスの研究」（研究代表者）、2019～2022年度
- 挑戦的研究（萌芽）「遺跡出土アスファルトの高精度原産地推定法の開発と先史流通システムの解明」（研究代表者）2019～2021年度
- 基盤研究（S）「東アジアにおける農耕の拡散・変容と牧畜社会生成過程の総合的研究」（研究分担者）、2019～2023年度
- 新学術領域研究「イネの栽培化と植物質食料資源の開発」（研究分担者）、2015～2019年度
- 基盤研究（A）「プラント・オパール中の遺伝情報を利用した稲作史研究手法の構築に向けた学際的研究」（研究分担者）、2019～2023年度
- 戦略1プロジェクト公募研究「歴史資源からみた新世代品種の創出に向けた温暖化耐性イネの評価」2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 栗原市教育委員会「山王岡遺跡出土資料の学術調査」
- 大阪府弥生文化博物館「佐藤コレクション出土米の分析」
- 平川市「平川市文化財を活かした魅力発信に関する調査研究」
- 福島県立博物館「福島県荒屋敷遺跡出土縄文土器の漆塗膜の分析」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 上條信彦「北日本の縄文文化を深く知ろう」弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2019、弘前大学創立50周年記念会館、2019年11月3日

[それ以外のもの]

- 展示「砂沢遺跡・湯の沢遺跡」（令和元年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会、青森県埋蔵文化財調査センター）2019年12月7日
- ギャラリートーク『ここが変わった！郷土資料館』（平川市郷土資料館）2019年11月3日
- 取材協力「食の起源 米」（NHKスペシャル）2019年12月30日放送

片岡太郎

(1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれをを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 片岡太郎、上條信彦、関根達人『国史跡山王罫遺跡の研究I 漆器編』、共著、2020年3月、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「X線CTを使った縄文時代の漆器製作技術の体系化」(研究代表者) 2016～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「ししが沢のしし石の活用に係る保存科学的研究」黒石市、2019～2020年度
- 国内共同研究「埋設木製タイムカプセル資料調査」弘前市、2019年度

思想文芸講座

李 梁

(1)現在の研究テーマ

- 近世東アジア知識論の研究、漢訳西学書の研究、イエズス会の教育思想研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 李 梁「中国・日本本草学の伝統と近代西欧科学（フルーパー稿）」『ARENA』2020特別号、pp.54-63、単著、2020年1月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李 梁「新文化運動の一側面—近代中、西洋医学論争をめぐって—」国際日本文化研究センター、単独、国士舘大学世田谷キャンパス、2019年11月9～10日

(7)共同研究、受託研究など

- 国際共同研究「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」(研究分担者)、2014～2020年度
- 国際共同研究「比較のなかの東アジア王権論と秩序構想—王朝・国家、または宗教・儀礼—」(研究分担者)、2016～2019年度

今井正浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典古代の歴史文化全般
- ヒポクラテス、ガレノスに代表される古代ギリシア・ローマ期の医学者たちに関する研究
- アリストテレスの動物学に関する研究
- 古代ギリシア・ローマ期の動物の発生理論に関する研究

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 今井正浩「アリストテレスと動物の生殖発生をめぐる諸問題—「精液」(スベルマ)の概念を中心に—」日本科学史学会 第66回年会 (2019年5月25日～26日/岐阜大学)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (一般)
[研究課題名「動物の生殖発生をめぐる論争史を通してみた西洋古代の人間観の思想文化史的解明」]
(研究代表者) 2019～2021年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 古典ギリシア語・ラテン語に関するもの
- 西洋古典古代の歴史文化全般に関するもの

泉 谷 安 規

(1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ、シュルレアリスム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 泉谷安規「アンドレ・ブルトン『通底器』における夢の記述の一読解の試み（Ⅲ）」『人文社会科学部論叢』第7号、pp.13-40、単著、2019年8月

横 地 徳 廣

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 横地徳廣「一と多の問題：ハイデガーからアレントへ？」『東北大学倫理学研究会編『MORALIA』』第25号、単著、2019年10月
- 横地徳廣「『風の谷のナウシカ』前史の生命環境倫理学：虚構と現実のあいだで〈進化的アプリオリ〉を考える」『弘前大学人文社会科学部編『人文社会論叢（人文社会科学篇）』』第7号、単著、2019年8月

(3)研究発表、講演

- 横地徳廣「想像力再考：ハイデガー、カント、ヴァイトゲンシュタイン」野家啓一先生古希記念研究会、単独、大観ホテル会議室、2019年8月5日
- 横地徳廣「呪われた英雄と政治的仮象」日本比較文化学会 東北・関東支部合同例会、単独、神田外語学院、2019年9月7日
- 横地徳廣「斎藤慶典『私は自由なのかもしれない』合評会、コメント（横地）」斎藤慶典『私は自由なのかもしれない』合評会、単独、東北大学情報科学研究科、2020年3月14日

原 克 昭

(1)現在の研究テーマ

- 日本思想史、中近世期の神仏習合思想を基調とする宗教文芸、神話注釈の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 原 克昭「『天神七代』をめぐる言説史・再勘——神話注釈の視座から——」『東洋の思想と宗教』第37号、pp.24-39、単著、2020年3月
- 原 克昭「〈中世日本紀〉の射程——さまざまな神話のかたち——」『弘前大学国語国文学』第41号、pp.1-15、単著、2020年3月

[その他]

- 原 克昭「中世の『日本書紀』研究を担った学匠たち」『中外日報』第28544号、p.11、単著、2020年1月
- 原 克昭「深浦円覚寺所蔵印信類の概要」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第2号、pp.61-67、単著、2020年2月
- 原 克昭「深浦円覚寺所蔵印信類棒目録（歴代諸師伝領別）」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第2号、pp.68-83、単著、2020年2月
- 原 克昭「吉川流神代四弓再伝・同大星極伝」『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第6号、pp.187-193、単著、2020年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 原 克昭「『天神七代』をめぐる言説史・再勘——神話注釈の視座から——」早稲田大学東洋哲学会・第36回大会、単独、早稲田大学、2019年6月15日

[講演]

- 原 克昭「〈中世日本紀〉研究の射程——さまざまな神話のかたち——」弘前大学国語国文学会・第61回大会、単独、弘前大学、2019年11月10日

- 原 克昭「日本中世の〈うらない・まじない〉世界——天寿は占えるのか?! ——」弘前大学人文社会科学部・国際講座 2019、単独、2019年11月13日
- 原 克昭「東奥義塾高校図書館蔵日本思想史関係資料について——《秘事相伝書》の世界～津軽信政と山鹿素行・吉川惟足をつなぐモノ——」2019年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、2019年11月17日
- 原 克昭「〈神〉と〈仏〉がコラボする信仰世界——図像学からのアプローチ——」地域未来創生塾@中央公民館・第8回、単独、2020年1月22日

尾崎 名津子

(1)現在の研究テーマ

- 日本近現代文学、出版メディア、検閲研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 織田作之助著、尾崎名津子編『織田作之助女性小説セレクション 怖るべき女』、編者、2019年8月、春陽堂書店
- 尾崎名津子「敗戦直後の秋田雨雀—占領下の郷里とのかかわり—」郡千寿子・仁平政人編著『青森の文学世界 〈北の文脈〉を読み直す』、pp.111-142、単著、2019年9月、弘前大学出版会
- 金ヨシロン・尾崎名津子・十重田裕一編『「言論統制」の近代を問いなおす 検閲が文学と出版にもたらしたもの』、共著、2019年9月、花鳥社
- 尾崎名津子「『文藝首都』の〈批評〉のモード—保高德蔵・青野季吉を軸として」小平麻衣子編『『文藝首都』—公器としての同人誌』、pp.41-58、単著、2020年1月、翰林書房

[論文]

- 尾崎名津子「高見順『今ひとたびの』の諸本—メリーランド大学ブランゲ文庫所蔵本を中心に—」『弘前大学国語国文学』第41号、pp.31-51、単著、2020年3月

[その他、資料解題]

- 尾崎名津子「他山文鈔」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第2号、pp.209-213、単著、2020年2月
- 尾崎名津子「西洋事情外編」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第2号、pp.214-219、単著、2020年2月
- 尾崎名津子「西洋事情二編」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第2号、pp.220-224、単著、2020年2月
- 尾崎名津子「西洋旅案内」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第2号、pp.225-229、単著、2020年2月
- 尾崎名津子「地学事始 初編」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第6号、pp.170-173、単著、2020年3月

[その他、予稿]

- 尾崎名津子「漂流者のナラティブ—中村地平『長耳国漂流記』を中心に—」『第7回東アジアと同時代日本語文学フォーラム 2019台北大会+次世代フォーラム予稿集』、pp.86-87、単著、2019年10月

[その他、書評]

- 尾崎名津子「『東京百年物語』1-3(岩波文庫)」『早稲田学報』第1235号、p.62、2019年5月
- 尾崎名津子「高橋秀太郎・森岡卓司編『一九四〇年代の〈東北〉表象—文学・文化運動・地方雑誌』」『日本近代文学会東北支部会報』第59号、pp.11-13、単著、2019年12月
- 尾崎名津子「「ない」のに「買う」人々 欠如ゆえに何が生み出される瞬間 左右社編集部編『お金本』」『週刊読書人』第3323号、p.5、2020年1月

[その他、エッセイ]

- 尾崎名津子「「人」であること、「他者」と在ること」、弘前大学出版会編『弘前大学レクチャーコレクション 学びの世界へようこそ』、pp.230-231、単著、2020年3月、弘前大学出版会

[その他、対談]

- 尾崎名津子、朝吹真理子「オダサクが描く女性の一生」『週刊読書人』第3314号、p.8、共著、2019年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 和泉司、張文薫、廖紹凱、尾崎名津子、村山龍「近現代台湾における検閲が及ぼした影響を考える—文学テクストを中心に—」日本台湾学会第21回学術大会、共同、福岡大学(日本)、2019年6月8日
- 尾崎名津子「1940年前後の中村地平における記録と小説の相克」『東亞人文社會科學研究的新地平線—人物、文化、思想、海洋與經濟的交匯』国際論壇、単独、中国文化大学(台湾)、2019年10月3~5日

- 尾崎名津子「漂流者のナラティヴー中村地平『長耳国漂流記』を中心に」東アジアと同時代日本語文学フォーラム第7回台北大会、単独、政治大学（台湾）、2019年10月25～26日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - 台湾（台湾大学、国立台湾図書館、国家図書館）、研究会・史料調査、2019年9月
 - アメリカ（メリーランド大学、アメリカ議会図書館）、史料調査、2020年2月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - 若手研究「占領期（1945-1949）の単行本検閲の実態——出版社鎌倉文庫を起点として」（研究代表者）、2018～2020年度
 - 公益財団法人日本台湾交流協会共同研究助成事業「日本と台湾における〈戦争〉表現の比較研究—1940～50年代の変遷から考える」（研究分担者）、2019年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
 - 弘前大学人文社会科学部国際公開講座2019「人文学で／人文学を探究する」、弘前大学、2019年11月3日

畑 中 杏 美

- (1)現在の研究テーマ
 - 20世紀英文学における老いと笑いの表象
 - Muriel Sparkの小説における〈悪〉と〈罪〉
- (2)著書、論文、その他
[論文]
 - 畑中杏美「The Bachelorsにおける strangerとしての Ronald」『Ferris Research Papers』第10号、pp.30-51、単著、2020年3月
- (3)研究発表、講演
[研究発表]
 - 畑中杏美「The Bachelorsにおける 'stranger'としての Ronald」日本英文学会中部支部第71回大会、単独、三重大学、2019年10月26日
- [講演]
 - 『『ジェイン・エア』の「著者」は誰?』弘前大学国際公開講座、単独、弘前大学、2019年11月3日
 - 「英語圏への短期研修の効果測定：オンラインプログラムを利用して」山梨県大村智人材育成基金 若手研究者奨励事業 第3回研究成果報告会、単独、2019年11月25日
- (4)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - 2019年9月3日（火）～2019年9月20日（金）英国 科研費調査のため
- (5)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - 若手研究（B）「20世紀イギリス小説における老いと笑いの表象」（研究代表者）、2018～2021年度
- (6)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）
 - 英語コミュニケーション

コミュニケーション講座

山 本 秀 樹

- (1)現在の研究テーマ
 - 地理情報システム（GIS）による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究
- (3)研究発表、講演
[研究発表]
 - 山本秀樹「日本語の語順と言語類型論」Prosody and Grammar Festa 4、単独、神戸大学、2020年2月15～16日
- (7)共同研究、受託研究など
 - 令和元年度科研費獲得支援事業「デジタル世界言語地図による世界諸言語の遠い類縁関係の検証と解明」（研究代表者）2019年度

木村宣美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学（統語論・意味論）：

右方移動現象と併合／線形化のメカニズム；述語（動詞句）削除に対する2種類のbeに基づく分析；文体的倒置／there構文／as挿入節／比較節の節構造

(4)学外集中講義など

- 出張講義「英語学入門：情報構造と語順 — どのような時に受動態で表現すれば良いの？—」「言語の脳科学—言語の獲得—」青森県立三戸高等学校 2019年6月13日
- 地域未来創生塾@中央公民館【第9回】「この日本語、ちょっと違って、どうしてわかるの？習ってもいないのに！」弘前文化センター第3会議室 2020年2月12日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- GLOW in Asia XII in Seoul & The 21th Seoul International Conference on Generative Grammar (SICOGG 21), Dongguk University, Seoul, Korea, August 7-9, 2019 (2019年8月6日～10日)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「複数の助動詞が生じる右方移動構文の内部構造と派生メカニズムの解明」(研究代表者) 2017～2019年度

熊野真規子

(1)現在の研究テーマ

- 外国語教育（フランス語教育、複言語・複文化教育、サービスマーケティング）

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊野真規子「プロジェクト学習型アクティブ・ラーニングのゆくえ — 「弘前×フランス」プロジェクトの持続から考える」『RENCONTRES』第33号、単著、2019年7月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊野真規子「2019年度『弘前×フランス』プロジェクト —負の遺産を推進力に変える実践—」Rencontres Pédagogiques du Kansai 月例会、単独、2020年3月25日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 公開ワークショップ「ブルーストとジェネリックスキル—『国際化と異文化理解』（近畿大学講義）の手法を体験する—」（講師：近畿大学法学部 高橋 梓氏）、弘前大学、2019年9月30日

小野寺 進

(1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 小野寺 進「高等教育機関での多読授業の評価方法」『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第4号、pp.75-84、単著、2020年3月

南 修平

(1)現在の研究テーマ

- アメリカ現代史、ニューヨークの歴史と文化、労働民衆史、アメリカ愛国主義研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 南 修平「愛国主義を抱きしめて—第2次大戦期ニューヨークにおける余暇と「白人労働者階級」」『人文社会科学論叢』第7号、pp.41-60、単著、2019年8月

[その他]

- 南 修平「泰西修身論（700481、700481）」『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩藩校稽古館資料調査集録第六集』第6号、pp.174-179、単著、2020年3月

(3)研究発表、講演

[調査報告]

- 南 修平「『泰西修身論』とフランス・ウェイランドの諸影響」2019年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前市立観光館多目的ホール、単独、2019年11月17日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 人文社会科学部学部専門科目「トラベルスタディーズA」（テネシー州マーティン市など）、2019年8月31日～9月15日
- ニューヨーク市/ニュージャージー州ホーボーケン市（コロンビア大学、ホーボーケン歴史史料館）での史料調査、2019年4月1日～5日
- ニューヨーク市/ニュージャージー州ホーボーケン市、ジャージーシティ市（コロンビア大学、ホーボーケン歴史史料館、ジャージーシティ公立図書館）での史料調査、2019年10月17日～29日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「第2次世界大戦後のニューヨーク港湾地区の衰退と都市秩序に関する史的考察」（研究代表者）2017～2020年度
- 令和元年度弘前大学学生海外派遣促進事業学生海外PBL事業「アメリカ/フランス研修によるグローバルマインド育成と地域課題に対する意識涵養事業」（代表者）2019年8～9月

堀 智 弘

(1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究、奴隷制文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Tomohiro Hori, "The American Moral Painter in Absolute Darkness": Metaphoric Contagion and the Sublime in Edgar Huntly and After. *Tohoku Studies in American Literature* 第43号, pp.3-19, 単著, March 2020

[その他]

- 堀 智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第三章～第四章」『人文社会科学論叢』第7号、pp.299-314、単著、2019年8月
- 堀 智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第五章～第六章」『人文社会科学論叢』第8号、pp.165-180、単著、2020年2月

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 米国ジョージア州アトランタとアセンズ、資料調査と意見交換、2019年9月21日～29日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「ジャクソニアン・デモクラシー期の米国社会の世俗化・市場化と物語形式の変容」（研究代表者）、2018～2020年度

楊 天 曦

国際社会講座

齋 藤 義 彦

(1)現在の研究テーマ

- 現代ドイツ、ヨーロッパ文化

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 齋藤義彦「第55回ミュンヘン安全保障会議における連邦首相アンゲラ・メルケル博士の演説」『人文社会科学論叢』第7号、pp.219-228、単著、2019年8月

- 齋藤義彦「大学学長会議年次総会でのドイツ連邦大統領フランク・ヴァルター・シュタインマイアーの演説（2019年11月18日、ハンブルク）」『人文社会科学論叢』第8号、pp.115-122、単著、2020年2月

城 本 る み

(1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉

(2)著書、論文、その他

[その他／フィールドワーク]

- 「台湾の先行事例に基づくハンセン病療養所の転用可能性に関する実証研究」
- 「現代中国論に関する資料収集」

(3)研究発表、講演

[講演]

- 城本るみ「遠距離介護と看取り体験～日本の老人施設とホスピス」、単独、台湾／東呉大学社会工系、2019年12月3日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾／台北市・新北市、台湾のハンセン病問題に関する現地調査・資料収集、2019年12月1日～12月7日
- 中国／吉林省長春市、現代中国論に関する現地調査・資料収集、2019年8月6日～8月18日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「地域特性を視座とする新たな提言のためのハンセン病療養所将来構想の比較研究」（研究代表者）2019～2022年度

荷 見 守 義

(1)現在の研究テーマ

- 中国明代史・東アジア近世史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 荷見守義「巡視と巡関―明代首都北京防衛をめぐって―」『アフロ・ユーラシア大陸の都市と社会』、pp.415-446、単著、2020年3月

[その他]

- 「農政全書」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第6集、127～131頁、2020年3月31日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集成の解明」（研究分担者）、2018～2021年度

林 明

(1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 林明「マハートマー・ガンディーと日本の関係（1）」『サルボダヤ』第59巻5号、pp.6-15、単著、2019年5月15日
- 林明「マハートマー・ガンディーと日本の関係（2）」『サルボダヤ』第59巻9号、pp.8-14、単著、2019年9月15日

[その他]

- Akira Hayashi「Japan-Bharat Sarvodaya Mitrata Sangha」『日印サルボダヤ交友会オフィシャルサイト（英語版）』、単独、2019年9月15日
- 林明、熊本義寛、サンジャイ・クマール・ヴァルマ、竹中千春、シュリークリシュナ・クルカルニ、蓑輪顕量、ラケーシュ・ジョーシ「インド赤門会主催ガンディー生誕150周年記念イベント」『最新ニュース2020年 東京大学インド事務所公式ウェブサイト』、共同、2020年2月4日
- 林明「2人のインド独立の闘士との日印協力：マハートマー・ガンディーと藤井グルジー、スパス・チャンドラ・ボースとインパール作戦」『東大TV 東京大学公式ウェブサイト』、単独、2020年2月14日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 林明「スニール・ダット氏の長崎・広島平和行進 藤井日達上人とマハートマー・ガンディーの出会い」映画「ラーマーヤナ」上映及び「スニール・ダット氏の長崎・広島平和行進」に関する講演会、単独、シネマノヴェチェント、2019年9月22日
- 林明「2人のインド独立の闘士との日印協力：マハートマー・ガンディーと藤井グルジー、スバース・チャンドラ・ボースとインパール作戦」ガンディー生誕150周年記念式典@東大ホームカミングデー、単独、東京大学本郷キャンパス、2019年10月19日

澤田 真一

(1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 青柳まちこ、他『ニュージーランドTODAY』pp.196-197、単著、2019年4月、春風社
- 高瀬雅弘、他『弘前大学レクチャーコレクション』pp.295-296、分担執筆、2020年3月、弘前大学出版会

[その他]

- 澤田真一「日本におけるニュージーランド研究：文学の立場から」『日本ニュージーランド学会誌』第26巻、pp.68-70、単著、2019年7月
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ニュージーランド 科研費による研修 2019年9月10日～21日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - 基盤研究 (C)「差異の受容—ニュージーランド文学から見たキリスト教とマオリ宗教の弁証法的融合—」(研究代表者) 2019～2021年度

FUHRT VOLKER MICHAEL

(1)現在の研究テーマ

- 日本と東アジアにおける歴史認識、ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

BUTLER ALASTAIR JAMES

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 竹内孔一、バトラーアラスデア、長崎郁、バルデシプラシャント「PropBank形式を考慮したNPCMJに対する意味役割付与～態の違いと経験者の付与～」『言語処理学会 第26回年次大会』、共著、2020年3月
- Alastair Butler, “From discourse to logic with Stanford CoreNLP and Treebank Semantics”, *The Sixteenth International Workshop of Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS 16)* 第1号, pp.14, 単著, November 2019
- 竹内孔一、Alastair Butler、長崎郁、Prashant Pardeshi「NPCMJに対する述語項構造シソーラスの意味役割と概念フレームの付与」『研究報告自然言語処理 (NL)』第4号、pp.1-4、共著、2019年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 竹内孔一、バトラーアラスデア、長崎郁、バルデシプラシャント「PropBank形式を考慮したNPCMJに対する意味役割付与～態の違いと経験者の付与～」言語処理学会 第26回年次大会 (NLP2020)、共同、2020年3月18日
- Susanne Miyata and Alastair Butler, “Building an acquisition model of Japanese syntax structures: Connecting the Rich Tree information of JMOR-based Kusunoki Treebank with CHILDES speech data” *International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2019 (ISMBS 2019)*, 共同, Great Arsenal Conference Center, Chania, 27th August 2019
- Alastair Butler「Parsed Corpus Investigations」統語・意味解析コーパス (NPCMJ) チュートリアル、単独、品川インターシティ、2020年2月1日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - 基盤研究 (C)「Developing a program for language teaching with parsed corpora」(研究代表者) 2019～2021年度
 - 基盤研究 (C)「シベリア先住民族諸言語のテキストコーパス構築と文法及びその構造的変化に関する研究」(研究分担者)

2019～2022年度

- 基盤研究 (B) 「統語・意味解析情報タグ付きコーパス開発用アノテーション研究：複文を中心に」(研究分担者) 2014～2019年度

中 村 武 司

(1)現在の研究テーマ

- 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 中村武司「ウェストミンスター寺院と軍人のモニュメント、1700—1850年」『人文社会科学論叢』第8号、pp.37-61、単著、2020年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 中村武司「財政軍事国家論から財政海軍国家論へ」 「近世・近代イギリス史の再考と財政海軍国家論」研究会、単独、2019年6月30日

(4)学外集中講義など

- 放送大学面接授業「ヨーロッパとは何か——その理念と歴史」、放送大学青森学習センター、2019年7月6日・7日
- 集中講義「西洋史」、ノースアジア大学経済学部、2020年2月18日～21日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「近世・近代イギリス史像の再考と財政海軍国家論」(研究代表者)、2017～2019年度

武 井 紀 子

(1)現在の研究テーマ

- 古代日本地方制度研究、出土文字資料研究、日唐律令制比較研究

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 武井紀子「東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第6巻、pp.132-169、単著、2020年3月
- 武井紀子「書評 今泉隆雄著『古代国家の地方支配と東北』」『歴史』第133巻、pp.56-64、単著、2019年10月
- 武井紀子「第117回史学会大会古代史シンポジウム コメント・討論」『史学雑誌』第129巻1号、pp.86-87、単著、2020年1月
- 武井紀子「新刊紹介 吉田孝『統 律令国家と古代の社会』」『史学雑誌』第128巻6号、pp.89-90、単著、2019年5月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 武井紀子「『大日本史』と『礼儀類典』の編纂—(付)2019年度藩校資料調査概要—」(2019年旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、2019年11月17日(日)於弘前市立観光親多目的ホール)

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 若手研究 (B) 「東アジアの視点からみた律令財政の構造的な研究」(研究代表者)、2018～2021年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 弘前大学国史研究会大会(2019年9月29日(日)於弘前大学医学部保健学科)

亀 谷 学

(1)現在の研究テーマ

- イスラーム世界におけるカリフ制と統治システム
- イスラーム世界における貨幣

(2)著書、論文、その他

[著書]

- Miura Toru and Sato Kentaro (eds.), *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part 2*, 共著 (Chapter 1, Document XIV (pp.84-92); Chapter 5, Document XIV, (pp.187-194) を担当), 2020

年3月, Toyo Bunko

[論文]

- KAMEYA Manabu, "Monetary Transactions in the Vellum Documents" in *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries: Part 2*, pp.138-150, 単著, 2020年3月, Toyo Bunko

[その他]

- 亀谷学、大塚修、松本隆志「イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注(1)」『人文社会科学論叢』第8号、pp.123-154、共著、2020年2月
- 亀谷学「氣海觀瀾広義(700631)」「氣海觀瀾広義(700442)」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録第六集』、pp.180-186、単著、2020年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Manabu Kameya, "Fatimid Coinage and Caliphal Authority" *International Medieval Congress 2019*, 単独, University of Leeds, 4th July 2019
- Manabu KAMEYA, "Early Islamic Military Cities and their Sasanian Background" *Workshop on Sasanian Cities*, 単独, 19th February 2020

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「ファーティマ朝カリフ概念の研究によるカリフ史の再構築」(研究代表者)、2018~2020年度

情報行動講座

曾 我 亨

(1)現在の研究テーマ

- 東アフリカ牧畜社会における気候変動と紛争
- 東アフリカにおける難民の生存を可能にした新たな経済活動
- 人類の進化史的基盤に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 曾我亨「自民族愛と他民族憎悪のあいだ」『極限：人類社会の進化』、単著、2020年1月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「アフリカ牧畜社会における民族紛争への文化進化論的接近」(研究代表者) 2018~2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「[社会性の起原：ホミニゼーションをめぐって]プロジェクト研究会」2018~2019年度

大 橋 忠 宏

(1)現在の研究テーマ

- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
- 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

[論文]

- 大橋忠宏「北東北・北海道の地域間交通の課題」、李永俊・飯島裕胤(編)『人口80万人時代の青森を生きる：経済学者からのメッセージ』、pp.103-113、単著、2019年10月

羽 淵 一 代

(1)現在の研究テーマ

- 親密性と近代化
- 高度情報化とメディア文化の成熟

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 羽淵一代、片瀬一男、石川由香里、林雄亮 他『「若者の性」白書—第8回青少年の性行動全国調査報告』、共著、2019年8月、小学館

[論文]

- 羽瀧一代「中国の若者の性行動とその動機」『青少年の性行動／日中比較研究 報告書』、pp.42-49、単著、2019年11月

[その他]

- 羽瀧一代「書評 〈ヤンチャな子ら〉のエスノグラフィー」『家族社会学研究』第31巻2号、pp.197-198、単著、2019年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Ichiyo HABUCHI, "Sexual victimhood among Japanese students" *24th Congress of the World Association For Sexual Health*, 単独, Mexico city, Mexico, 12th-15th October 2019

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B) 「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」(研究代表者)、2018～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「第2期つがる市人口ビジョン・総合戦略策定基礎調査」(研究代表者)、2019年度

増 山 篤

(1)現在の研究テーマ

- 地理的な近接性 (アクセシビリティ) に関する理論的・実証的研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Atsushi Masuyama, "Logsum-type space-time accessibility measures (STAMs) that can be calibrated under a definite time budget" *International Journal of Geographical Information Science* 34(1), pp.22-40, 単著, January 2020

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 増山 篤「段階的意思決定を考慮した時空間アクセシビリティ指標」日本地理学会春季学術大会、単独、駒澤大学、2020年3月26～29日

内 海 淳

(1)現在の研究テーマ

- XML規格を用いた文書処理

(4)学外集中講義など

- ひろだいナビゲート・キャラバン in 弘前南高校 2019年6月26日

日比野 愛 子

(1)現在の研究テーマ

- 道具と組織との相互変容過程
- ゲーミングを活用したコミュニケーションデザイン

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 日比野愛子「工場生産の現場にみる身体—機械の関係性」『国立民族学博物館研究報告』第44巻2号、pp.255-278、単著、2019年10月
- Aiko Hibino, Go Yoshizawa, Jusaku Minari, "Meaning of Ambiguity: A Japanese Survey on Synthetic Biology and Genome Editing" *Frontiers in Sociology*, 4(81), 共著, October 2019
- Ryosuke L. Ohniwa, Aiko Hibino, "Generating process of emerging topics in the life sciences" *Scientometrics*, 121(3), pp.1549-1561, 共著, December 2019

[その他]

- 日比野愛子「コミュニケーションというつながり方—「盛り上がり」と「誤解」の心理学」『弘前大学レクチャーコレクション』pp.64-71、分担執筆、2020年3月
- 日比野愛子『平成29年度調査研究助成 研究成果報告書 エスノグラフィにもとづく文化係留型ゲーミング・シミュレーションの開発実践』編集、2020年3月、科学技術融合振興財団

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Aiko Hibino 「Domesticating Uncertainty: The “Infection” of the Mathematical Model of Infectious Diseases」 Society for Social Studies of Science Annual Meeting、単独、2019年9月6日
- 日比野愛子 「人工物から見る集団の変容」 質的心理学会第16回全国大会、単独、2019年9月22日
- Aiko Hibino, Toru Soga, Kentaro Komura 「From ethnography to action: Games about regional farming」 日本グループ・ダイナミックス学会第66回大会 (English session)、共同、2019年10月19日
- 日比野愛子、仲村太志、古橋麻衣、竹内昌治 「培養肉受容性の規定因に関する研究」 日本社会心理学会第60回大会、共同、立正大学、2019年11月10日
- 日比野愛子、仲村太志、古橋麻衣、竹内昌治 「培養肉受容性の規定因に関する研究」 シンポジウム 「未来の食料生産に向けて～培養肉開発の最前線」、共同、2019年11月17日 (ポスター発表)

(7)共同研究、受託研究など

- 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業「先端生命科学を促進する先駆的ELSIアプローチ」(研究分担者) 2016年12月～2019年11月
- 科学技術振興機構 未来社会創造事業「三次元組織工学による次世代食肉生産技術の創出」(研究分担者) 2018年～

花 田 真 一

(1)現在の研究テーマ

- エネルギー市場の相互作用の定量評価、災害復興の時系列的変化

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 李永俊、花田真一 「災害復興感の時系列的変化とその決定要因—東日本大震災の被災地住民アンケート調査を用いて—」 『地域未来創生センタージャーナル』 第6巻、pp.37-47、共著、2020年2月
- 花田真一 「電力自由化が住宅のエネルギー利用に与えた影響の分析」 『2018年度「規制と競争研究会」第4期分科会報告書』、pp.61-78、単著、2019年12月
- 花田真一 「地方自治体による再生可能エネルギー政策」 『人口80万人時代の青森を生きる』 pp.79-99、単著、2019年10月
- Hiroyuki KIKUSATO, Yu FUJIMOTO, Shin-ichi HANADA, and others, “Electric Vehicle Charging Management Using Auction Mechanism for Reducing PV Curtailment in Distribution Systems” *IEEE Transactions on Sustainable Energy*, pp.1-9, 共著, July 2019

[その他]

- 李永俊、花田真一 「大学生の地元意識と就業に関する意識調査報告書」 『弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター報告書』、共著、2020年3月
- 李永俊、花田真一、日比野愛子 「統計調査における学生調査員の世帯調査の可能性に関する調査報告書」 『弘前大学地域未来創成センター報告書』、共著、2019年12月
- 福田進治・花田真一 「自治体新電力が成立する最小規模に関する調査報告」 『人文社会科学論叢』 第7号、pp.247-258、共著、2019年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Kangyu, Nagata, Lee, Hanada, Kawamura, Atsumi, “Collaborative Practice and Action Research to Promote Endogenous Recovery from the 3.11 East Japan Earthquake & Tsunami: 8 Years Experience in Noda” *International Society for Integrated Disaster Risk Management*, 共同, 16th-18th October 2019
- 花田真一 「Analysis of the effect of the retail electricity market deregulation on gas market」 環境経済・政策学会2019年研究大会、単独、福島大学、2019年9月28～29日
- 花田真一 「電力自由化が住宅のエネルギー利用に与える影響の分析」 大阪ガス規制都教組研究会第4期分科会、単独、アネックス備後町、2019年9月19日
- 花田真一 「電力自由化がガス市場に与えた影響」 Policy Modeling Workshop、単独、政策研究大学院大学、2019年7月13日
- 花田真一 「電力自由化が住宅のエネルギー利用に与えた影響の分析」 日本経済政策学会全国大会、単独、城西大学、2019年6月1～2日

(4)学外集中講義など

- 地域未来創生塾「統計データを活用しよう！ ―統計調査の重要性―」弘前市中央公民館、2019年12月25日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 大阪ガス・規制と競争研究会第4期分科会研究助成「電力自由化が住宅のエネルギー利用に与えた影響の分析」、2018年度～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 平成31年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業(青森県)「広域連携による自治体新電力設立の可能性を探る調査研究」(分担者)、2019年度
- アダプティブ株式会社共同研究「アンケート調査データの新たな活用に関する調査研究」(代表者)、2019年度～2020年度
- 金沢星稜大学共同研究「災害リスクに対する家計・企業の対応の研究」(分担者)、2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- Contract Theory Workshop Summar Camp、弘前大学・弘前市中央公民館、2019年8月12日～14日

古村 健太郎

(1)現在の研究テーマ

- 恋人間暴力、恋愛関係の維持と精神的健康、アタッチメント理論から見た失恋経験

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 古村健太郎、戸田弘二、村上達也、城間益里「元恋人へのアタッチメント欲求が関係崩壊後の反応段階の移行を遅らせる」『心理学研究』第90巻3号、pp.231-241、共著、2019年8月
- 古村健太郎、松井 豊「マッチングアプリの利用とリスクのある性交経験との関連」『地域未来創生センタージャーナル』第6巻、pp.15-26、共著、2020年2月
- 古村健太郎、相馬敏彦、山中多民子、杉山詔二「恋人間暴力に対する1次予防プログラムに関する探索的検討 ―ネガティブな相互作用における対処行動の行使可能性に着目して」『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第4号、pp.27-37、共著、2020年3月

[その他]

- 高本真寛、古村健太郎「城戸奨励賞（日本教育心理学会）」受賞、(研究分担者)、2019年9月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 古村健太郎、相馬敏彦、山中多民子、杉山詔二「大学生を対象としたDV予防プログラムに用いるDV場面の特徴」日本心理学会第83回大会、共同、立命館大学、2019年9月12日
- 古村健太郎「コミットメントと心理的暴力被害の関連は暴力の被害段階によって異なるか」日本パーソナリティ心理学会第28回大会、単独、武蔵野美術大学、2019年8月29日
- Aiko Hibino, Toru Soga, Kentaro Komura「From ethnography to action: Games about regional farming」日本グループ・ダイナミックス学会第66回大会、共同、富山大学、2019年10月19日
- 金政祐司、古村健太郎、浅野良輔「愛着不安ならびにDTが夫婦間の間接的暴力に及ぼす影響～夫婦ペア縦断調査からの検討～」日本社会心理学会第60回大会、共同、立正大学、2019年11月9日
- 古村健太郎、金政祐司、浅野良輔「夫婦関係における関係良好性の変化～2年間の夫婦ペア縦断調査による検討～」日本社会心理学会第60回大会、共同、立正大学、2019年11月9日
- Yuji Kanemasa, Ryosuke Asano, Kentaro Komura, “The effects of Attachment anxiety and Dark triad on marital violence ~examination based on a matched-pair longitudinal study~” *The Society for Personality and Social Psychology’s Annual Convention 2020*, 共同, New Orins, 26th-29th February 2020

[講演]

(4)学外集中講義など

- 2019年度夏期集中講義「心理学の世界―身近な対人関係の維持と崩壊―」岩手大学、2019年9月3日～6日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「DVのエスカレートを防ぐ：関係性への予防科学的アプローチ」(研究分担者) 2019～2023年度
- 若手研究 (B)「実行意図の形成による恋人間暴力への予防的介入とスマートフォン・アプリの開発」(研究代表者) 2019～2022年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 心理学講習会 筑波大学附属高等学校、2019年7月
- Let's スタディ 東京都立松沢病院 講師、2019年8月
- ひとにやさしい社会推進セミナー 弘前市 講師
- 先生大集合! 職員会議@HLS弘前 vol.7「心理学×教育」 講師 2019年12月
- ファンタジスタ×HLS弘前「心を動かすクリエイティブ—広く強く伝えるためのアイデア—」 2020年1月
- 心理学講習会 筑波大学附属高等学校 2020年2月
- 東北6県警察防犯担当者と研究者との交流会 2020年3月

ビジネスマネジメント講座

保田 宗良

(1)現在の研究テーマ

- 地域医療の質的向上と医療マーケティングシステムの構築

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 保田宗良「医療・介護サービスにおける患者、利用者満足に関する論点整理」『人文社会科学論叢』第7号、pp.113-121、単著、2019年8月
- 保田宗良「持続可能な医療サービスと医療経営の革新について」『産業経済研究』第20号、pp.79-89、単著、2020年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 保田宗良「患者満足度の質的向上と医療イノベーションの展開」日本消費経済学会全国大会、単独、北星学園大学、2019年7月7日
- 保田宗良「持続可能な医療サービスと医療経営の革新について」日本産業経済学会全国大会、単独、名古屋外国語大学、2019年9月13日
- 保田宗良「持続可能な医療サービスと多職種連携についての考察」日本消費経済学会東日本大会、単独、弘前大学、2019年12月7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「地域医療の質的向上を意図した医療マーケティングシステムの構築」(研究代表者) 2017～2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会共済「消費者フォーラム in HIROSAKI」弘前大学人文社会科学部、2020年1月25日

[それ以外のもの]

- 日本消費経済学会東日本大会、弘前大学人文社会科学部視聴覚ルーム、2019年12月7日

加藤 恵吉

(1)現在の研究テーマ

- 国際税務、法人税法、自然栽培と組織変革

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Masatoshi Kosugi and Keikichi Kato, "The role of collaboration in developing agricultural competitiveness and welfare" *Journal of Japanese Management* vol.41, No.1, pp.15-29, 共著, November 2019

[その他]

- 加藤恵吉、黄孝春、小杉雅俊、内藤周子、V.カーペンター「自然栽培を通じた食と農業の持続可能な発展と地域づくりのための試み」『地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.61-66、共著、2020年2月
- 地域未来創生教育・研究プロジェクト「自然栽培を通じた食と農業の持続可能な発展と地域づくりのための試み」(研究代表者) 2019年度

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 加藤恵吉、小杉雅俊「バランスト・スコアカード導入の効果と課題：農業生産法人におけるケース・スタディー」日本管理会計学会2019年度年次全国大会、共同、専修大学、2019年8月27日

(4)学外集中講義など

- 青森公立大学大学院 「課題研究指導(租税法)」

(7)共同研究、受託研究など

- 「税制が企業会計その他の企業行動に及ぼす影響に関する研究」『日本会計研究学会 2018-2020年度特別委員会』 浅野敬志(首都大学東京) 岩崎瑛美(松山大学) 大沼 宏(中央大学) 奥田真也(名古屋市立大学) 加藤恵吉(弘前大学) 鈴木一水(神戸大学)(委員長) 全16名

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部・公益財団法人メルコ学術振興財団共催 弘前大学・管理会計セミナー「自然栽培と管理会計～マネジメントの視点から～」2020年2月8日 於：弘前大学 コメンテーター 運営

森 樹 男

(1)現在の研究テーマ

- 日系多国籍企業の地域統括本社制
- 北欧の地域活性化モデルと青森県
- 地方企業における商品開発とデザイン
- 観光ビジネスと地域活性化

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 安室憲一、古沢昌之、山口隆英、森樹男、ほか『安室憲一の国際ビジネス入門』、共著、2019年5月、白桃書房
- 森樹男、高島克史、大倉邦夫、熊田憲『青森からはばたく!! じょっぱり起業家群像I』、共著、2019年10月、弘前大学出版会

[その他]

- 森樹男『弘前大学人文学部ビジネス戦略実習 課題解決型学習と学生の主体的な学び—大学生のチャレンジ2019—報告書』、編集、2020年3月、弘前大学人文社会科学部
- 森樹男『弘大じょっぱり起業家塾2019 実施報告書』、単著、2020年3月、弘前大学

(4)学外集中講義など

- 出張講義「商業科・情報処理科 課題研究」黒石商業高校、2019年5月13日、2019年5月15日
- 出張講義「大学模擬講義 2019」弘前中央高校、2019年10月18日
- 出張講義「令和元年度 大学模擬講義」大館鳳鳴高校、2020年2月4日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾、スタディツアー、2019年11月21日～25日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「地域経済統合の後退が多国籍企業の組織に与える影響—欧州地域統括本社を中心に—」(研究代表者) 2019～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「津軽海峡交流圏形成のための人財育成事業」青森県庁(研究代表者) 2019～2021年度
- JR東日本寄附講義「将来的な津軽海峡交流圏形成による地域活性化を担う地域の観光人材育成のため」2019年6月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 6大学合同シンポジウム「ひろさを担うひとづくり～地域と大学生の関わり合いを通じて」大学コンソーシアム学都ひろ

さき、2020年1月25日

- 「学生団体シンポジウム～6大学と学生1万人が弘前を作る～」大学コンソーシアム学都ひろさき、2019年12月1日
- 「津軽海峡交流圏 ラムダ塾」弘前大学および青森県、2019年9月3日、11月18日、2020年2月10日

熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 森樹男、高島克史、大倉邦夫、熊田憲『青森からはばたく!!じょっぱり起業家群像I』、共著、2019年10月、弘前大学出版会

[論文]

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングの現実的な効果に関する検討：地方銀行へのヒアリング調査に基づく考察」『地域未来創成センタージャーナル』第6号、pp.5-13、共著、2020年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングによる新規事業支援の組織間連携と課題」産学連携学会第17回大会、共同、奈良県文化会館、2019年6月20～21日

[講演]

- 地域中小企業の経営とイノベーション～地域企業のイノベーション戦略～、経営戦略サロン、弘前大学八戸サテライト、青森、2019年7月25日
- イノベーションによる地域活性化、東北税理士会「集合研修」、弘前大学、青森、2019年9月17日

(4)学外集中講義など

- 弘大じょっぱり起業家塾「地域から起こすイノベーション」弘前大学、2019年7月12日
- 地域イノベーションの考え方、地域未来創成塾@中央公民館、弘前文化センター、青森、2019年11月13日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 公益財団法人石井記念証券研究振興財団・令和元年度研究助成、小杉雅俊・熊田憲「クラウドファンディングを活用した地域イノベーション創出」(課題番号411)、共同研究者、令和元年～令和2年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「けっぱれ！学生起業家 一弘大生が地域課題を解決します2019— 2019年度ビジネス戦略実習成果報告会」ヒロロ4階 市民文化交流館ホール、2019年12月20日

高 島 克 史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論、ベンチャー企業論

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 森樹男、高島克史、大倉邦夫、熊田憲『青森からはばたく!!じょっぱり起業家群像I』、共著、2019年10月、弘前大学出版会

[その他]

- 佐藤敬、高島克史他「地域企業と連携した人材育成」『弘前大学レクチャーコレクション』、pp.2-8、共著、2020年3月
- フィールドワーク「板柳町ふるさとセンター機能強化事業」2017～2019年度

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 高島克史「ふるさとセンターの機能強化に関する研究」国立大学法人弘前大学と板柳町との平成30年度連携調査研究事業 成果報告会、単独、板柳町ふるさとセンター伝承館、2019年4月25日

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「板柳町ふるさとセンターの機能強化研究」板柳町（研究代表者）2017～2019年度

内藤 周子

(1)現在の研究テーマ

- 会計学、財務会計、IFRS、国際財務報告、公会計、農業会計

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Shuko Naito, Carpenter Victor 「Rice Production and the Natural Farming Movement in Japan : A Study of Farm Management Issues and Approaches」『人文社会科学論叢』第7号、pp.123-138、共著、2019年8月。
- 加藤恵吉、黄孝春、小杉雅俊、内藤周子、V.カーペンター「自然栽培を通じた食と農業の持続可能な発展と地域づくりのための試み」『地域未来創生センタージャーナル』第6号、共著、2020年2月。

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Shuko Naito, Carpenter Victor 「Developing performance evaluation indicators from natural farming management approaches in Japan」Accounting Research Seminars with University of Phayao, 共同、Hirotsuki University, 22th May 2019

[ディスカッション]

- 内藤周子 「『中小企業会計教育の現状と課題』（成川正晃氏）」日本会計研究学会第97回東北部会・研究発表、単独、宮城学院女子大学、2019年11月30日
- 内藤周子 「『稲作経営を支える自然栽培』（阿部知里氏）」管理会計セミナー「自然栽培と管理会計～マネジメントの視点から～」弘前大学人文社会科学部・メルコ学術振興財団共催、弘前大学、2020年2月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「農業会計における測定属性の理論形成と財務指標の開発」(研究代表者) 2017年度～2020年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

- 公認会計士・監査審査会 特別講演「職業としての監査 ―公認会計士の魅力―」(公認会計士・監査審査会常勤委員 松井隆幸 先生)、弘前大学、2019年5月13日
- 管理会計セミナー「自然栽培と管理会計～マネジメントの視点から～」弘前大学人文社会科学部・メルコ学術振興財団共催、2020年2月8日

大倉 邦夫

(1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 森樹男、高島克史、大倉邦夫、熊田憲『青森からはばたく!!じょっぱり起業家群像I』、共著、2019年10月、弘前大学出版会

(7)共同研究、受託研究など

- 「青森県南部町との若者の移住定住促進に向けた連携事業」(研究代表者) 2019年度

小杉 雅俊

(1)現在の研究テーマ

- イギリスにおける品質原価計算
- プロセスコストモデルの実務適用と展開
- 農福連携で機能するマネジメント・コントロール・システムについての事例研究
- 地域におけるクラウドファンディングの活用

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Masatoshi KOSUGI and Keikichi KATO, "The role of collaboration in developing agricultural competitiveness and welfare," *Journal of Japanese Management*, Japan Federation of Management Related Academies. Vol.4 No.1, pp.15-29, 共著, November 2019
- 熊田憲・小杉雅俊「クラウドファンディングの現実的な効果に関する検討：地方銀行へのヒアリング調査に基づく考察」『地

域未来創生センタージャーナル』弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター, No.6, pp.5-13, 共著, 2020年2月

[その他]

- Masatoshi KOSUGI and Keikichi KATO, "Evaluating the Role of Collaboration via Management Control Systems on Agricultural Competitiveness and Welfare," *SSRN Working Paper*, <https://ssrn.com/abstract=3360207> or <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.3360207>, pp.1-13, 共著, April 2019 (Since it is decided to be published as the above paper, only abstracts can be viewed at present)
- 熊田憲・小杉雅俊「地方銀行における組織間連携によるクラウドファンディングの取り組み」『産学連携学会第17回大会予稿集』産学連携学会, pp.274-275, 共著, 2019年6月
- Masatoshi KOSUGI, "Consideration on the relationship between quality and cost in the 1970's in the U.K. : Case Review of the Milk Marketing Board" *Session Abstracts Accounting in History, Session 4A: Life Cycles, Quality and Quantification*, Accounting History Review Conference, p.26, 単著, September 2019
- 黄孝春・加藤恵吉・小杉雅俊・内藤周子・V.カーペンター「自然栽培を通じた食と農業の持続可能な発展と地域づくりのための試み」『地域未来創生センタージャーナル』弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター, pp.61-66, 共著, 2020年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Masatoshi KOSUGI, "Focus on the Collaboration between Agriculture and Welfare : a case study of agricultural production corporation in Japan," *Accounting Research Seminars with University of Phayao*, 単独, Hirosaki University, Japan, May 22, 2019
- 熊田憲・小杉雅俊「地方銀行における組織間連携によるクラウドファンディングの取り組み」産学連携学会第17回大会、共同、奈良県文化会館、2019年6月21日
- 加藤恵吉・小杉雅俊「バランスト・スコアカード導入の効果と課題 —農業生産法人におけるケース・スタディー—」日本管理会計学会2019年度年次全国大会、共同、専修大学生田キャンパス、2019年8月28日
- Masatoshi KOSUGI, "Consideration on the relationship between quality and cost in the 1970's in the U.K. : Case Review of the Milk Marketing Board," *Accounting History Review Conference 2019*, 単独, Edge Hill University, the United Kingdom, September 11, 2019
- Masatoshi KOSUGI, "Remuneration by the real supply of crops : farm management under the community concept in Japan," *The European Institute for Advanced Studies in Management 7th European Reward Management Conference*, 単独, Headquarters of the European Institute for Advanced Studies in Management, Belgium, December 13, 2019
- 小杉雅俊「事例研究から紐解く農福連携の効果と実態」青森県地域政策研究会、単独、青森県庁、2020年1月29日

[コメンテーター]

- 「この世のパラダイスの作り方〜鹿嶋編〜」コメンテーター、メルコ学術振興財団公開特別経営セミナー『自然栽培と管理会計』、弘前大学創立50周年記念会館、2020年2月8日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2019年8月30日〜9月30日 イギリス
- 2019年12月10日〜12月19日 ベルギー

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業（若手研究）「農福連携による農作物品質向上のためのマネジメント・コントロール・システムの解明」（研究代表者）、2019〜2021年度
- 公益財団法人石井記念証券研究振興財団研究助成「クラウドファンディングを活用した地域イノベーション創出」（研究代表者）、熊田憲先生との共同研究、2019〜2020年度
- メルコ学術振興財団研究成果普及助成事業「自然栽培と管理会計：マネジメントの視点から」（研究分担者）、2019年度。

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 公認会計士・監査審査会 特別講演「職業としての監査〜公認会計士の魅力〜」（公認会計士・監査審査会常勤委員 松井隆幸先生）、弘前大学、2019年5月13日
- メルコ学術振興財団公開特別経営セミナー「自然栽培と管理会計」弘前大学創立50周年記念会館、2020年2月8日

経済システム講座

池田 憲 隆

(1)現在の研究テーマ

- 1883年から実施された長期軍備拡張計画の政治経済的影響について

[その他]

- 池田憲隆「千田武志著『呉海軍工廠の形成』」、書評、2019年11月

細 矢 浩 志

(1)現在の研究テーマ

- EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 細矢浩志「欧州自動車産業の電動化戦略の現状と課題」『産業学会研究年報』第35号、pp.111-129、単著、2020年3月
- 細矢浩志「『100年に一度』の変革期に挑む欧州自動車産業」『経済』第291号、pp.120-133、単著、2019年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 細矢浩志「欧州自動車産業の電動化戦略と国際分業網の再構築」第57回産業学会全国研究会、単独、相模女子大学、2019年6月8～9日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「欧州自動車多国籍企業の生産ネットワーク戦略の基本構造と進化に関する実証的研究」(研究代表者)2017年度～2020年度

(7)共同研究、受託研究など

- 立教大学学術推進特別重点資金SFR「欧州におけるEVシフトと生産・インフラ・ネットワークの再構築と日系企業への影響」(研究分担者)2019年度

黄 孝 春

(1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、コメの自然栽培、鉄鉱石価格の決定方式

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 黄孝春『人口80万人時代の青森を生きる』、pp.39-61、共著、2019年10月、弘前大学出版会

[論文]

- 加藤恵吉、黄孝春ほか「自然栽培を通じた食と農業の持続可能な発展と地域づくりのための試み」『地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.61-66、共著、2020年2月
- 黄孝春「世界におけるリンゴ新品種のライセンス・ビジネス」『人文社会科学論叢』第7号、pp.229-246、単著、2019年8月

[その他]

- 黄孝春「海外リンゴ事情」『林檎商組日報』、単著、2019年5月
- 黄孝春「海外リンゴ事情」『林檎商組日報』、単著、2020年3月
- 黄孝春「日本リンゴ中国席卷」『日本農業新聞』、単著、2019年10月
- 黄孝春「輸出リンゴシェア変化」『日本農業新聞』、単著、2019年5月
- 弘前大学戦略研究「県産りんごの輸出拡大の可能性とその課題」(研究代表者)、2019年度
- 地域未来創生センター研究プロジェクト「人口減少時代の青森経済」(研究分担者)、2019年度
- 地域未来創生センター研究プロジェクト「自然栽培と地域創生」(研究分担者)、2019年度

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 黄孝春「日本リンゴ産業の特徴」第12回中国陝西国際リンゴ博覧会国際リンゴ産業フォーラム、単独、中国西安市、2019年10月12日
- 黄孝春「中国のリンゴ生産と販売」矮化研究会、単独、アップルランド、2019年12月17日

- 黄孝春「世界のリンゴ産業と中国のリンゴ現状について」青森県リンゴ協会基幹青年研修会、単独、岩木青少年スポーツセンター、2019年12月4日
 - 黄孝春「自然栽培を経営する」特別経営セミナー 自然栽培と管理会計、単独、弘前大学50周年記念会館、2020年2月8日
 - 黄孝春「人口減少時代の青森農業」弘前大学経済学会大会、単独、弘前大学50周年記念会館、2019年10月28日
 - 黄孝春「青森県におけるクラブ制導入の課題」クラブ制研究会、単独、農研機構、2020年3月19日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- 9月12日～23日 中華人民共和国（上海、威海など）でリンゴ調査
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 一般受託研究「自然栽培と管理会計—マネジメントの視点から」メルコ学術振興財団、2019年10月～2020年2月
 - 国内共同研究「GLOBALG.A.P.管理点と適合基準「苗木編」啓蒙普及の調査研究」合同企業amRex、2018年8月～2019年5月
 - 国内共同研究「GLOBALG.A.P.「苗木編」の実地検証を目的とした共同研究」原田種苗、2019年8月～2020年2月

李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 李 永俊、飯島裕胤『人口80万人時代の青森を生きる—経済学者からのメッセージ—』弘前大学出版会
- 李 永俊、花田真一『大学生の地元意識と就業に関する意識調査』地域未来創生センター
- 李 永俊、花田真一、日比野愛子『令和元年統計調査における学生調査員の世帯調査の可能性に関する調査報告書』地域未来創生センター

[論文]

- 李 永俊、花田真一「災害復興感の時系列的変化とその決定要因—東日本大震災の被災地住民アンケート調査を用いて—」『地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.37-47、共著、2020年2月

[その他]

- 地域未来創生教育・研究プロジェクト「災害復興感の時系列的変化とその決定要因—被災地住民アンケートを用いて—」2019年度
- 地域未来創生教育・研究プロジェクト「大学生の地元意識と就業に関する意識調査」2019年度
- 李 永俊「災害とボランティア—東日本大震災の経験を糧に—」『弘前大学レクチャーコレクション 学びの世界へようこそ』弘前大学

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李 永俊、花田真一「東日本震災被災者の復興感の時系列的変化とその決定要因」政策科学研究会、共同、青森県庁、2020年2月14日
- 李永俊「人口80万人時代の青森を生きる—経済学者からのメッセージ—」地方創生ネットワーク会議、単独、弘前大学、2019年7月23日
- 李 永俊「人口80万人時代の青森県経済と労働市場」弘前大学経済学会、単独、弘前大学、2019年10月28日
- Youngjun LEE and Shinichi HANADA, “An Examination of the Self-Evaluations Over Time of Survivors Regarding Their Recovery Following the 3.11 Tsunami” *Integrated Disaster Risk Management 2019 Conference*, 共同, Nice, France, 16th-18th October 2019

[講演]

- 李 永俊「人口80万人時代の青森を生きる—経済学者からのメッセージ—」地域未来創生塾、単独、弘前市立中央公民館、2020年2月26日
- 李 永俊「子どもの居場所、本県の現状と課題」弘前大学ボランティアセンター・市民ボランティア講座、弘前大学50周年記念会館岩木ホール、2019年12月6日

- 李 永俊「共に生きる一地域の力」文京地区民生委員児童委員協議会、2019年12月10日
 - 李 永俊「学習支援の現状と課題」青森県子どもの居場所づくりコーディネーター育成講座、青森県民福祉プラザ、2019年11月13日
 - 李 永俊「人が働く意味」プラットフォーム西北地区キャリア教育育成事業、五所川原農林高校、2019年11月12日
 - 李 永俊「こどもの貧困と学習支援・こども食堂の現状報告」八戸こども食堂シンポジウム、八戸市、2019年8月30日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- 弘前大学学生海外PBL事業、ハワイ HCC、2019年9月17～26日
 - Integrated Disaster Risk Management 2019 Conference, 共同, Nice, France, 16th-18th October 2019
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (B)「被災コミュニティの内発的復興を支えるアクションリサーチ」(研究分担者) 2017～2019年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 一般受託研究「統計調査における学生調査員の世帯調査の可能性研究業務」青森県庁(研究代表者) 2019年4月～12月
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 地域未来創生センターフォーラム「人文社会科学系アプローチの課題と可能性」弘前市市民文化交流館、2019年2月28日
 - 地域未来創生塾、弘前市中央公民館、2019年10月9日～2020年2月26日全10回
 - 市民ボランティア講座「人が繋がる地域の居場所づくりについて」、弘前大学岩木ホール、2019年12月6日
 - 市民ボランティア講座「身近な災害対策を知っておこう」弘前大学学生会館、2020年1月31日

福田進治

(1)現在の研究テーマ

- リカードの経済理論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 福田進治「日本のリカード研究の独自性と多様性」『人文社会科学論叢』第7号、pp.139-152、単著、2019年8月

[その他]

- 福田進治・花田真一「自治体の新電力が成立する最小規模に関する調査研究」『人文社会科学論叢』第7号、pp.247-258、共著、2019年8月
- つがる市・西津軽地区自治体新電力調査研究連携体「広域連携による自治体新電力設立の可能性を探る調査研究」(令和元年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業成果報告書)、1-82頁、共著、2020年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 福田進治「日本のリカード研究の独自性と多様性」第40回経済学史学会東北部会例会、共同、コラッセふくしま、2019年5月25日

[討論]

- 福田進治「石井穰：通貨価値変動に関するジョン・パートンの考察」第29回マルサス学会大会、単独、沖縄国際大学、2019年6月30日
- 福田進治「八木尚志：アダム・スミスの価値と再生産—集計された価値と労働からなるモデルにおいて—」第39回リカード研究会、単独、立教大学、2019年8月3日
- Shinji Fukuda「Renee Prendergast: James Mill and William Thompson」Kyoto Conference 2019 on James Mill and John Stuart Mill/ Classical Political Economy、同志社大学、2019年9月12日

[講演]

- 北村和也・福田進治・花田真一「広域連携による自治体新電力設立の可能性を探る調査研究」令和元年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業ワークショップ(青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・つがる市・鱒ヶ沢町・深浦町)、共同、つがる市役所、2020年1月23日
- 福田進治・花田真一「広域連携による自治体新電力設立の可能性を探る調査研究」令和元年度第3回地域エネルギー事業研修講座(青森県・青森COC+推進機構)、共同、ホテル青森、2020年2月17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「リカード・マルサス論争と古典派経済学の展開：その交錯と対抗および現代性の研究」(研究分担者)

2017年度～2020年度

●基盤研究 (B)「経済理論の大衆化から経済政策の形成へ：テキストマイニングを応用した実証研究」(研究分担者) 2015年度～2019年度

●基盤研究 (C)「日本のリカード研究の独自性と多様性に関する研究」(研究代表者) 2015年度～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

●令和元年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業(青森県委託事業)「広域連携による自治体新電力設立の可能性を探る調査究」(青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・つがる市・鱒ヶ沢町・深浦町) 2019年7月～2020年3月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

●令和元年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業ワークショップ(青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・つがる市・鱒ヶ沢町・深浦町)、つがる市役所、2020年1月23日

●令和元年度消費者教育推進事業「消費者フォーラム in HIROSAKI」(弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会)、弘前大学、2020年1月25日

飯島裕胤

(1)現在の研究テーマ

●応用理論経済学、企業金融論、ファッション・ブランドの経済分析(とくにライセンス契約について)

(2)著書、論文、その他

[著書]

●李永俊、飯島裕胤『人口80万人時代の青森を生きる—経済学者からのメッセージ—』、共編者、2019年10月、弘前大学出版会

[論文]

●飯島裕胤、成田英司「人口減少とインフラ大量更新の時代」の家計—費用負担と資産形成に関する試算と考察—『地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.27-36

●飯島裕胤、家田崇「ファッション・ブランドの保護と競争性—産業財産権の法と経済分析—」『人文社会科学論叢』第8号、pp.25-36

(3)研究発表、講演

[講演]

●飯島裕胤、成田英司「人口減少とインフラ大量更新の時代の家計」政策科学研究会、共同、青森県庁、2020年1月19日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

●米国フォーダム大学(ニューヨーク市)、研究打ち合わせと調査、2019年5月3日～12日など

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●基盤研究 (C)「ファッション・デザインに関する産業財産権の法と経済分析」(研究代表者) 2019～2021年度

山本康裕

(1)現在の研究テーマ

●金融政策全般

●銀行貸出の変動が実体経済に与える影響

●青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

●山本康裕「北海道6地域圏及び青森県の宿泊者数データの時系列分析」『人文社会科学論叢』第8号、pp.87-113、単著、2020年2月

●Yasuhiro Yamamoto, "Less competitive bank markets: Conventional and unconventional monetary policies through bank-lending channels" *International Finance*, pp.1-20, 単著, December 2019

●山本康裕「青森県マクロ経済は、非伝統的金融政策にいかに対応するか?」『人口80万人時代の青森を考える—経済学の視点から—』、pp.145-158、単著、2019年10月

●山本康裕「北海道マクロ経済と非伝統的金融政策」『人文社会科学論叢』第7号、pp.153-177、単著、2019年8月

小谷田 文彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

金目 哲郎

(1)現在の研究テーマ

- 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 金目哲郎「少子高齢化と人口流出にどう向き合うか 地方自治体が見出す「3割自治」の活路」『公益社団法人日本経済研究センター政策ブログ』、単著、2019年7月
- 金目哲郎「臨時財政対策債、急増する自治体財政の禁じ手」『公益社団法人日本経済研究センター政策ブログ』、単著、2019年5月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 金目哲郎「ナショナル・ミニマム概念と地方交付税制度」日本財政学会第76回大会、単独、横浜国立大学、2019年10月19日

[その他]

- 金目哲郎「地域活性化に向けた自治体財政の可能性と課題」弘前大学地域社会研究科公開セミナー、単独、青森市、2019年11月3日
- 金目哲郎「人口減少社会の行政サービスを考える」弘前大学地方創生ネットワーク会議、単独、弘前大学、2019年7月23日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ポーランド、地方税財政資料の収集および調査、2019年4月1日～2日
- 韓国、地域経済に関する研究打合せおよび事例調査、2019年12月27日～31日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 学部「地域課題研究」受講学生による「学習成果発表会」、弘前市役所、2019年7月31日
- 財政学ゼミナール合同大会「研究成果発表会」、さいたま市、2019年8月31日～9月1日

桑波田 浩之

(1)現在の研究テーマ

- グローバル化が所得格差に与える影響、国際貿易の実証分析

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 桑波田浩之「グラビティ・モデルを用いたリングの輸出の推計」『人口80万人時代の青森県を生きる—経済学者からのメッセージ—』pp.63-77、共著、2019年10月、弘前大学出版会

[論文]

- 桑波田浩之「海外直接投資が経営者の報酬へ与える影響—日本企業のデータを用いた実証分析—」『人文社会科学論叢』第8号、pp.155-161、単著、2020年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 桑波田浩之「The impact of international competition on executive compensation: Evidence from Japanese firms during the global trade collapse」日本国際経済学会第78回全国大会、共同、アジア経済研究所、2019年9月28日
- 桑波田浩之「東日本大震災が日本の貿易へ与えた影響」第5回政策科学研究会、単独、青森県庁、2020年2月14日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究「グローバル化が経営者の報酬へ与える影響に関する計量実証研究」(研究代表者) 2020年度～2023年度

公共政策講座

平野 潔

(1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 飯考行、裁判員ラウンジ編著、飯考行、田口真義、平野潔他『あなたも明日は裁判員!?!』、pp.183-187、共著、2019年4月、日本評論社

[論文]

- 平野潔「裁判員裁判の10年—青森県の裁判員裁判を中心に—」『人文社会科学論叢』第8号、pp.63-85、単著、2020年2月

[その他]

- 平野潔編『制度施行10年を迎えた青森県の裁判員裁判』pp.1-130、2020年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 平野潔「青森の裁判員裁判10年」青森県の裁判員裁判—これまでの10年間を振り返る、単独、弘前大学人文社会科学部校舎多目的ホール、2019年11月3日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 裁判員制度シンポジウム「青森県の裁判員裁判—これまでの10年間を振り返る」、弘前大学、2019年11月3日

兎山正史

(1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場（準市場）としての福祉・医療の選択制、地方自治体の行政評価

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 兎山正史「準市場の優劣論と障害者福祉の選択制（2）」『人文社会科学論叢』第7号、pp.179-204、単著、2019年8月
- 兎山正史「準市場の優劣論と障害者福祉の選択制（3）」『人文社会科学論叢』第8号、pp.1-24、単著、2020年2月

(4)学外集中講義など

- 模擬授業「公務員になりたい？なぜ？どの？」岩手県立盛岡第二高校、2019年10月17日

白石 壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- 移住・移動者とホーム（家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）論など

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Soichiro SHIRAISHI, "Settling Down in Local City, Staying Longer in Bachelor Days: Livelihood, sisterhood and maintenance of aspirations among highly educated women in Eldoret, Kenya" *Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences*, at Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland, August 2019
- Soichiro SHIRAISHI, "Field Research in/with Local Societies: Toward effective collaboration of universities and communities" *Seminar at Department of Social Work and Sociology*, School of Humanities and Social Sciences, University of Zambia, Lusaka, Zambia, September 2019

(4)学外集中講義など

- 地域未来創生塾（第1回、第2回）「イスラーム留学生の弘前暮らし①、②」、2019年10月9日、23日、弘前大学地域未来創生センター、於 弘前文化センター
- 放送大学講義「上京、Uターン、観光の人類学」、2019年12月21日～22日（全8回）、於 青森学習センター

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- Kenya共和国NairobiおよびEldoretにおいて、高卒・大卒女性の就業状況とアスピレーション維持に関する参与観察調査、2019年8月中旬～下旬

- Zambia共和国Lusakaにおいて、Zambia大学人文社会科学部での社会調査および社会調査教育についてのヒアリング、2019年9月初旬
- (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など
 - 基盤研究 (B) 「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」(研究分担者) 2018年度～2021年度
 - 基盤研究 (C) 「東アフリカ高学歴女性のライフコース戦略の研究：農村家族関係と新興中間層形成の動態」(研究代表者) 2019年度～2021年度
- (7)共同研究、受託研究など
 - 青森県構造政策課「地域経営体を中心となった共助・共存の農山漁村づくり」事業(統括：平井太郎)、2019～2021年度

長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 長谷河亜希子(緒方圭子、豊島明子、長谷河亜希子 編著)『日本の法(第2版)』、共同編集、2020年3月

[論文]

- 長谷河亜希子「フリーランスの育成・支援に必要なもの」『中小商工業研究』第141号、pp.34-41、単著、2019年10月

[その他]

- 土田和博、渡辺昭成、長谷河亜希子、青柳由香「学会回顧(経済法)」『法律時報』第91巻13号、pp.133-141、共著、2019年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 長谷河亜希子「労働市場と競争法」東京経済法研究会、単独、明治大学、2020年2月15日
- 長谷河亜希子「プラットフォーム労働者と経済法」日本弁護士連合会消費者問題対策委員会独禁法部会及び電子商取引部会、単独、弁護士会館、2019年8月2日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (A) 「データ駆動型社会の法に関する領域横断的研究—デジタルプラットフォームを焦点に」(研究分担者)、2019～2023年度
- 基盤研究 (C) 「競争法によるオンライン・プラットフォーム規制とギグ・ワーカーの保護に関する研究」(研究代表者)、2019～2022年度

近 藤 史

(1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展。生態環境の利用と保全。

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 杉山祐子、日比野愛子、曾我亨、近藤史、古村健太郎、平井太郎、諏訪淳一郎「地域の持続性に向けた共創手法の深化」『地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.57-60、共著、2020年2月
- 近藤史、杉山祐子、白石壮一郎、曾我亨、羽瀨一代「弘前大学資料館第22回企画展「装う”アフリカ”世界との交錯のなかで—」実施報告」『地域未来創生センタージャーナル』第6号、pp.127-131共著、2020年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 伊高健治、平井太郎、近藤史「むつ市脇野沢地区における地域エネルギー事業構築の可能性探索II」令和元年度「地域エネルギー事業案件形成促進支援事業」成果報告会、共同、ホテル青森、2020年2月17日
- 近藤史「林業先進地における各世帯の取り組みの違いと生活実態—タンザニア南部K村の場合—」「現代アフリカにおける資源管理と地域社会の動態」研究会、単独、函館市中央図書館、2020年1月4～5日
- 近藤史「タンザニア南部の古老が語る植林実践と植民地経験」日本アフリカ学会第56回大会、単独、京都精華大学、2019年5月18～19日

[講演]

- 「布で装う」カンガ布の着方・使い方 ワークショップ講師、弘前大学、2019年6月26日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 海外学術調査「タンザニア南部高地における『火』の制御を核とした植林技術の普及に関する研究」タンザニア連合共和国、2019年8月～10月
- 海外学術調査「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」タンザニア連合共和国、2019年8月～10月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「タンザニア南部高地における『火』の制御を核とした植林技術の普及に関する研究」(研究代表者)2018年度～2021年度
- 基盤研究(A)「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(研究分担者)2015年度～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 「むつ市脇野沢地区における地域エネルギー事業構築の可能性探索Ⅱ」(研究分担者)青森県令和元年度「『地域エネルギー事業』案件形成促進支援事業」
- 青森県令和元年度「地域経営体と共助・共存の農山漁村づくり」調査プロジェクト(研究分担者)

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学資料館第22回企画展「“装う”アフリカ—世界との交錯のなかで—」、弘前大学、2019年6月1日～7月20日
- 「音を装う」サカキマンゴ—トーク&ライブ、かだれ横丁多目的ホール(弘前市)、2019年6月4日
- 「布で装う」カンガ布の着方・使い方 ワークショップ、弘前大学、2019年6月26日
- 「装う精霊」アフリカ絵巻 ギャラリートーク、弘前大学、2019年7月5日

吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 吉村顕真「アメリカ法における填補賠償の制限法理——日米比較」Remedies研究会、単独、愛知大学、2019年4月7日
- 吉村顕真「アメリカ法における懲罰的損害賠償——日米比較」Remedies研究会、単独、愛知大学、2019年9月29日
- 吉村顕真「アメリカ法における純粋経済損失・苦痛のみの損害に対する損害賠償の制限法——日米比較」Remedies研究会、単独、愛知大学、2019年7月21日
- 吉村顕真「扶養利益喪失による損害賠償に関する序論的考察——損害賠償額の算定方法を中心にして——」末川民事法研究会、単独、立命館大学、2019年10月27日
- 吉村顕真「アメリカ法における不当利得・原状回復——日米比較」Remedies研究会、単独、2019年12月15日

[講演]

- 吉村顕真「懲罰的損害賠償制度の導入に関する基礎的試論」日本弁護士連合会 消費者問題対策委員会、単独、弁護士会館、2019年8月2日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究C：令和元年度 弘前大学科研費獲得支援事業

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 吉村顕真「『法律学』ってどんな学問なの？」オープンキャンパス、弘前大学、単独、2019年08月10日

河合正雄

(1)現在の研究テーマ

- 受刑者の権利

(2)著書、論文、その他

[その他、教科書]

- 河合正雄「表現の自由とヘイトスピーチ」弘前大学出版会編『弘前大学レクチャーコレクション 学びの世界へようこそ』pp.114-119、単著、2020年3月、弘前大学出版会

[その他、解説]

- 河合正雄「皇位継承に際して行われた一連の儀式・行事に関する憲法上の問題点について」『青年法律家』第588号、pp.2-3、単著、2020年2月

[その他、資料]

- 斎藤一久・河合正雄・城野一憲・森口千弘・山本真敬「2018 判例回顧と展望 憲法」『法律時報臨時増刊』pp.3-19（内、pp.12-16）、共著、2019年5月

(4) 学外集中講義など

- 2019年度夏季集中講義「教育と憲法（日本国憲法）」電気通信大学、2019年8月19日～21日